

### 〈有識者からの主な意見〉

- なぜ国家公務員の倫理規制やコンプライアンスが必要なのか、根源的な価値を具体的にして職員に浸透させるとともに、社会に伝えていく必要。根源的な価値に照らし、遵守すべきことは遵守し、逆に受容されるべきことも国民との対話で作っていかないと、過剰な規制を公務員に強いる恐れがある。
- 倫理規程の内容には今の世の中での感覚からすると、規制内容が曖昧なものや古いと感じるものがある。贈与を受けた場合の届出などは、むしろ贈与を受けるような習慣が残っているのかとの誤解も招きかねない。「少額ならよい」とも捉えられかねない曖昧な規制ならむしろなくした方がよく、時代に合った規程の見直しが必要ではないか。
- 幹部職員が供応接待を受けて処分された事案を見ると、会食を断りづらい事情はあったにしても、ノブリス・オブリージュの精神に見られるように、省庁幹部にはそれに応じた社会的責任や品格が求められ、自分が事業者等から利用されやすい立場にあることを常に意識することが肝要。事業者との会食の際に厳しい届出を課し、違反があれば厳しく処分されるような厳格な運用が必要。
- 事業者との情報交換は酒食を共にしないとできないものなのか。組織の建物内で行う勉強会のような形でも足りるのではないか。幹部であれば自腹でも支払える食事を奢ってもらったことで、公務に対する信頼や自身のキャリアを失うのは本当にもったいないことだと思う。
- 組織のリーダーシップを働かせるには、一方的な発信ではない上司・同僚・部下との対話が有効。意見交換を通じて信頼関係を築くことで、何かあった際に上司に相談したり、相談・通報がしやすい組織文化につながる。通報は勇気のいることだが、大切な機能であり、外から見て疑わしいと思われることがあれば通報するという意識作りが肝要。また、相談・通報の電話を受ける相手の顔が見える化するなど、心理的安全性を確保することも大事。
- 若手職員の倫理感の醸成には周りの職員の言動が大きく影響する。周囲に立派な人、尊敬できる人がいて、真摯に職務に取り組む姿を見ることで倫理感は培われる。組織内でお手本になる人を抜擢し、若い人へ良い影響を与えていくべき。
- 日本の国力が落ちている中で、国家公務員の役割は重要。就職先を考える上で重視されるのは、自身の能力を伸ばせる環境かどうかであり、優秀なIT人材を確保する上でも、若者が希望とプライドを持って働ける環境の整備が急務。公務のやりがいや魅力を効果的に発信し、不祥事が起きた際も、悪意のあるケースは別として、ただ謝るだけでなく、その経緯を説明して、国民に理解してもらおう努力をするなど、広報活動がとても重要。